

ゲートウェイ バイブル アカデミー 11th, March
クリスチャンリーダーシップとはなにか？（パート2）

パート1の要約

クリスチャンリーダーシップとは、生ける神の方法で、人々に目的を持って影響を与える事です。もし、'よい子育て'について考えるなら、ロールモデルになるというアイデアのように、クリスチャンリーダーシップの基本に役立つ洞察を与えてくれます。

さらに、リーダーシップは経験やトレーニングによって後から身につくものであり、生まれながらに受け継いだものでもあります。

とくに、主の許しと救い、主の御言葉として聖書にしっかりとつながれること、祈りと他のクリスチャンとの出会いなど、クリスチャンリーダーに不可欠なものがあります。

なぜリーダーが存在するのか？

人々は、人生において目的意識が必要です。

ここ数十年、とくに西欧諸国ではリーダーシップへの急激な関心が高まっています。様々な本やセミナーであふれています。なぜでしょう？大勢の人が言うには、私たちの社会の大きな変化です。

文化を解析する専門家たちは、'空前の変化の時代' または'世界観が再構築されている時代を生き抜く中での' '文化の構造プレート内の劇的な変化'を挙げています。

私たちは産業や科学、テクノロジーの分野での大規模な変化を目の当たりにしただけでなく、英国内における社会や宗教の仕組みも激変を遂げました。

したがって、英国の全体像は、人々がリーダーを追い求め、人生の意味を理解するために方向性を求めているというものになっています。

これは、教会リーダーにとってチャレンジです。

なぜ、教会にはよいリーダーシップが必要なのでしょうか？議論してみましょう。

羊飼い

「主は私の羊飼い。」（詩篇 23 篇 1 節）

”主イエス、羊の大牧者（ヘブライ人への手紙 13章20節）のガイダンスの下、方向性を与え、教会を形作るためにはリーダーが必要です。全体像を明らかにするためにも、教会はリーダーが必要です。

路頭に迷うということは、いまどこにいるのか、どこに向かったらいいのかを知らないではありません。見出されることは、主の全体像のどこに位置し、これから先どちらに行くかを知る事です。これによって、究極の人生の意味と目的とが与えられるのです。

クリスチャンリーダーシップを考えると、天職や性格に加え、方向付けるとか人々を導く能力があることは、重要な特性です。

おもしろいことに、”牧師”という言葉は、”羊飼い”という言葉があります。ただ一人’大牧者’（ペトロの手紙一 5章4節）が存在し、それがイエス・キリストです。

イエスは、上級牧師です。新約聖書が教会のリーダーとして牧師について語る時、指導の基本を、たとえばCAPリリース（依存症の人たちをサポートするグループ）やフードバンクなどのリーダーに置き換えることができます。

聖書の時代、羊飼いは後ろから羊たちを先導しました。指導のアイデアは、多種多様です。

過去から学ぶ

過去から学ぶことはとても重要で、リーダーシップにおいてその人を方向付けます。教訓を得るために、新約聖書では旧約聖書でのイスラエルの失敗（コリントの信徒への手紙一 10章1～3節など）をたくさん回想しています。

「かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです」（ローマの信徒への手紙 15章4節）

群れを率いる羊飼いは、先を見えています。しかし、重要なのは、過去（すでに歩いたえさ場）を自覚することです。

クリスチャンリーダーは、幅広く考え、過去から学び、ときには過ちから学ぶ人のことです。羊飼いは、危険を防ぐために、同じえさ場にまた行かないように経験から学びます。これは、将来の方向性の手助けになります。

クリスチャンリーダーを考えると、使命や人格を第一にしている間は、時にして過ちを犯すこともあるでしょう。

よいリーダーは失敗を自覚し、適切に扱えば、失敗は終わりではないのです。これは、あなたを強力なリーダーにさせます。

過去の過ちといえば（いまも私はミスをしてしまいましたが）、私は牧師に任命されて最初の頃に、経験不足のためにしてしまった判断ミス2つを思い浮かべます。

もう同じミスはしません。私は、それに関して言えば、賢いリーダーです。

”その放牧地”にはもう絶対に行きませんし、災難への道に行く事も絶対にないでしょう。リーダーシップにおける失敗は、リーダーとしての責任の重要性を浮き彫りにします。

ミニストリーのコーディネーターや牧師への説明責任にあたるでしょう。

リーダーシップチームに責任を持てる牧師は健全です。

ヒエラルキーのことを言っているのではありません。常に互いをチェックしあうことを意味しているのです。

これには、みんなに誠実でありオープンでいる事が要求されます。

とりわけ、リーダーがミスをしたとき、特に罪を犯してしまったとき、悔い改めと主に許しを求めることは絶対不可欠です。人々に許しを求めることも含まれるでしょう。

不貞行為、窃盗など、時にして、リーダーを辞任してしまうような最悪な失敗もあります。しかし、聖書の一般的な基本は、主はセカンドチャンスの神様だということです。

旧約聖書のヨナ、新約聖書の使徒ペテロの失敗を考えてみましょう。

過去から学ぶことは、主に道しるべを求めるように、リーダーにとって手助けになるのです。

「主は私の羊飼いです。私を義の道に導かれます。」（詩篇 23 篇 1 節、3 節）

現在の認識

羊飼いは過去に思いをはせ、そこから学びます。そして、現在も意識しています。過去にこだわったり、未来へと急いだりして、現在をおろそかにするのは危険です。

すべての歴史は、そのとき' 現在' であったわけです。羊飼いは、過去・現在・未来、どれが一番大切でしょうか？

たしかに、現在であるべきでしょう。クリスチャンリーダーシップは、根本的に現在において導く事です。

もちろん、過去から学ぶのは有益ですし、将来に備えて準備するのは賢いやり方です。

しかし、' いま' が重要なのです。今日という日をどんな風に送ったかが明日を決めます。

' 現在' というものは、いつ行動し決断を下すかを知る事です。

リーダーシップに、タイミングは非常に重要になってきます。

' カイロス' のときを、思い出してみましょう。' カイロス' とは古代ギリシャ語で、特別なとき、絶好なタイミングという意味があります。

ほかにときを意味するギリシャ語に' クロノス' というものがあります。継続している時間、継時的時間といいます。

カイロスは、タイムラプス、なにか重大な出来事が起こった時のことです。

主イエスは、スポットライトに当たるため、そして彼の真の生まれつきの姿と目的を明かすために、数え切れないほど人々にプレッシャーをかけられました。

どのときも、主はおっしゃいました。「わたしのとき（カイロス）は、まだ来っていない。」（ヨハネによる福音書 2 : 4、7 : 6、7 : 8、7 : 30、8 : 20）

いまだリーダーシップを発揮していましたが、彼のリーダーシップは、' ノー' という事、つまり、まだ行動を起こす時機は来っていないということでした。

いちど、主イエスはこのように言われました。「わたしの時が近づいた。」（マタイによる福音書 26 節 18 章）

羊飼いは、いつ新しい牧草地に移るか、現在の状況に基づいて決断しなければなりません。

主イエスのミニストリーにおいては、突然、「時が来た。」（マルコの福音書 14 : 41、ヨハネによる福音書 12 : 23、13 : 1、17 : 1）といて、十字架へのはりつけと復活に至る、ときがやってきました。

クリスチャンリーダーには、カイロスのを理解する能力がなければいけません。それは予期せず来るかもしれません。しかし祈りの中での準備段階において、起こるかもしれません。

ジョン・マックスウェルはこのように書いています。

「偉大なリーダーたちは、いつ導くかを、何をしてどこに向かうかと同じくらい重要だと認識している。」

将来のために準備する

時間的側面からクリスチャンリーダーシップを捉えるとき、過去・現在だけでなく、未来の存在なくしては語れません。

リーダーは常に成長発展し、将来への備えをする必要があります。

人生はとどまることはありません。過去や現在にとどまる事もできますが、それは衰退を招きます。

どの教会も、そして教会内の活動、グループ、プロジェクトすべて、活動的でなければいけません。さもなければ、教会は活動を止め、博物館になり、やがて霊廟（死の場所）となってしまいます。

もし羊飼いがいつも同じところに羊たちを立ち往生させていたとしたら、まさにこのようになります。欠乏、病気そして死がやってきます。同じように、もし教会が活動的でなくなったら、問題に脆弱なところまで落ちてしまいます。

羊飼いは、新鮮なえさ場へ羊たちをナビゲートする人のことです。そして群れの健康と成長を確保するのです。

よいナビゲーターは、行く先を見据えています。教会、グループ、プロジェクトが大きくなればなるほど、先を読むためにビジョンは明確でなければなりません。

既に過去の経験を役立てることを言及しました。

’いま’何をするかが、未来を形作るのです。

羊飼いのようにクリスチャンリーダーは、絶えず現在を手元に置いています。

羊たちを正しい方向へ導くように、羊飼いは羊たちを隠れた危険とわなから常に守っています。

さらには、羊たちが正しい方向をどんどん進むために必要なもの、食べ物・水・適したすみかを与えています。

現在において、これらすべてがなかったら、将来の可能性はありません。

勇気

ふさわしい未来へと人々を導くために、実際なにが関わっているでしょうか？

勇気が必要なのです。

だれも未来を予測する事はできません。主の恵みにより、ある程度未来を形作る事はできるのです。

よいリーダーは、よい聞き手です。

羊飼いは、一番いいえさ場について、他の羊飼いたちに相談するのです。

さらに、実際に羊たちを移動させる前に、自分で状況を調べるのです。

主をもっと信頼しないといけないところには、いつも’信仰’という未知なものがあります。よいクリスチャンリーダーは常に、恐れと事実でなく、信仰と事実を結び付けます。

約束の地に送られた12人のスパイの例があります。

そこでは、大勢のユダヤ人が敵方に回ろうと今か今かと待っていました。

旧約聖書では、どのようにモーゼがそれぞれの部族から一人ずつ選び、合計12人のスパイを送り、約束の地を調査したかが読み取れます。

スパイのうち10人が怖れと事実を織り交ぜた調査結果を出しました。

彼らはこう言っています。

「その地に住む民は強く、その町々は堅固で非常に大きい。」（民数紀 13章28節）

ほか2人のスパイ、カレブとヨシュアは、信仰と事実を結び付け、

「わたしたちはすぐにのぼって、攻め取りましょう。わたしたちは必ず勝つことができます。」（民数紀 13章30節）

と言いました。

クリスチャンリーダーは、リーダーシップを取るときに向こう見ずではいけません。

さらに前進したいのであれば、結論が信仰と事実両方を表しているかどうか、明確にしなくてはなりません。

ジョン・マックスウェルは、著書の中でこう書いています。

「もし、自信を持って頭の中でその旅路を描けないのなら、実際もできないだろう。」

それでも、勇気は要ります。じつに主への信仰です。

聖霊の任命

今日一緒に考えた、形作る人または、羊飼いになる秘訣は、主に任される人になるということです。どのクリスチャンも、「霊に満たされ」（エフェソの信徒への手紙 5章18節）ていなければいけません。

リーダーとして、あなたはどうでしょうか？

主に任命されて初めて、過去・現在・未来について考え、信仰と勇気を結びつけな

がら、形作り、指導することができるのです。

福音書は、主イエスは彼の人生とミニストリーにおいて霊に任命を受けていたと、はっきり描写しています。

すなわち、主イエスは主のパワーを頂いていたのです。

主イエスが最高牧師・上級牧師として聖別されていたなら、どれほどあなたにも必要かがわかるでしょう

—どのレベル・どんなタイプのリーダーシップであってでもです。

ルカによる福音書4章に、よい例が書いてあります。

「イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒れ野の中を’霊’によって引き回され」（ルカによる福音書 4章1節）

主イエスが、悪霊の誘いから打ち勝った荒野です。

どのようにでしょう？彼は、聖書から2箇所、申命記6章と8章から引用しています。

おそらく、その朝主イエスは瞑想していたのでしょう。

彼は、聖書の信頼できるパワーをご存知で、よくこのように言われました。「と書いてある。」

聖霊からの任命を受けるには、主の真実に満ち、常に主の御言葉に預かるべきだと、ここから学べます。これは、申命記から読み取れます。主イエスが悪魔に誘惑されたときに、

「人はパンだけで生きるのではなく、主の口から出るすべての言葉によって生きる」（申命記 8章3節）

と引用されています。

また、聖別についてみてみましょう。

「イエスは御霊の力に満ちあふれてガリラヤへ帰られると、」（ルカによる福音書 4章14節）

主イエスに次に何が起こったでしょう？聖霊と聖書の密接な関係を思い起こしてみてください。

彼はシナゴグに行き、この言葉で始まるイザヤ書をほどこきます。

「そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。」（ルカによる福音書 4章21節）

新約聖書に描かれているように、初期の教会と共に、主の任命と真実の関係が繰り返し書かれています。

それは、使徒言行録に始まり、主の聖霊が使徒のなかからリーダーを任命し、初期の教会を新しい場所へと導く様子が書かれています。

使徒言行録2章は、五旬節の日に主の聖霊が注がれる事と福音を伝える事の間連性を、明らかにしています。

あなたが聖書に繋がれていなければ、リーダーに任命される事は期待できません。

もしあなたが根を下ろしていなければ、リーダーシップを取る中で、聖霊の実はどこになるのでしょうか？

根を下ろすことは、第5週と6週に学ぶ、'敬虔な人柄'を考える上で、基本になるものです。

主イエスは初めてのリーダーたちに、こうおっしゃいました。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。・・・あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。わたしの父は栄光をお受けになるであろう。」（ヨハネによる福音書 15章5、7・8）

結論

進む道を形作り、方向性を与え、みんなが同じほうへ進むようモチベーションを与えるのは、リーダーの責任です。無条件反射的反応と違います。

かつて、誰かが言いました。

「あなたが将来を形作るのか、将来があなたを形作るのか」

すべてにおいて、あなたには聖霊が必要です。

主の働きがあなたの人生に注がれていなければ、リーダー職は破滅します。

あなたには、任命が必要です。積極的に聖書を読み、祈り、敬虔な生活をし、ほかのクリスチャンとの交わりに関わる事でのみ、可能になるのです。